

乳酸菌学会の会員の皆様へ

去る3月11日（金）の午後2時46分に、東日本と関東の広い地域にマグニチュード9.0および震度7.0の烈震が有りました。（その後、東日本関東大震災と命名されました）。地域によっては15分後に大きな津波が襲来致しました。本日の調査結果では、最大で津波は16mの高さにまだ達していたことが分かり、すべてが想定外の規模の震災で御座いました。

仙台市の市街地地域は海拔約60mの位置にありますので、津波の直接の被害は免れましたが、近隣の名取市、岩沼市、多賀城市、塩釜市、松島町、石巻市、気仙沼市などの地域では、直接津波の被害を受け、多数の死傷者が出ました。現時点では宮城県の津波による浸水面積は被害県の中では最も多く、死者も3000人以上が確認されており、さらに増加しています。仙台空港も津波により一階が水没しました。東北新幹線も仙台駅が崩壊し、現在那須塩原から盛岡までの区間の運転が出来ない状態です。完全な復旧までには数カ月が掛かるかと思われます。

仙台市内の建物も地震によりまして甚大な被害が出ましたが、大きく傾いたり、崩落や崩壊したビルディングは見当たりませんでした。東北大学の建物被害としましては、青葉山の理学部の生物・化学系の建物の一部が崩落したため、現在立ち入りが禁止されています。また、工学部の建築・土木系の建物は甚大な損傷を受け、使用禁止・入棟禁止となっています。私の所属する農学研究科・農学部では、昨年度の耐震補強工事のお陰で、建築後60年以上を経ている本館の大きな被害は免れました。しかし、内部の井戸水の配管などが大きく被害を受け、通水ができないためにトイレなどが使用できない状態です。市内中心部でのライフラインでは、概ね電気と水道な復旧しましたが、ガスの復旧が一番遅れており、あと一カ月程度はかかるかと思われます。

当農学部では、誠に残念ながら、4年生の学生一名が津波の犠牲となり命を落としました。人生これからと言う時期に被災されたことは、我々も痛恨の思いであります。心から、ご冥福をお祈り申し上げます。（HP情報では、工学部でも2名の方が津波で死亡したとあります）3月20日現在では、この方以外の一年生以上の学生・大学院生全員の安否確認ができています。

また、その後福島第一および第二原子力発電所でのヨウ素やセシウムなどの放射線漏えい事故が重なり、こちらはまだ完全に解決しておりません。しかし、チェルノブイリ原発事故とは深刻度が異なると思いますので、早期の解決が望まれております。福島県民の皆さんには、地震、津波そして原発と3重の衝撃と被害を受けておりますので、仙台からもお見舞いを申し上げる次第です。

また、早々と乳酸菌学会の理事の先生方からは、御見舞いや状況確認の連絡を多数頂きまして、この場をお借りしまして、心より厚く御礼申し上げます。

現在、卒業生の皆さんや、他大学や国立研究所および企業の多くの皆さんからも、支援活動などの暖かい励ましを相次いで頂いております。皆様の励ましを支えにして、農学研究科の教職員および大学院生が一丸となって、一日も早い復旧を目指して頑張っております。どうぞ、今後とも暖かく見守って頂ければ幸いです。

東北大学は、全学での卒業式と入学式の中止を決定するとともに、4月24日まで休校することを決定しました。農学研究科でも、4月下旬の新入生受け入れをめざして、懸命に復旧活動を行っております。

取り急ぎ、東北大学および農学研究科の震災後の簡単な状況報告とさせていただきます。乳酸菌学会の会員の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほど、心よりお願い申し上げます。



**センター2棟の屋根部に流出民家が乗り上げている様子
(3月15日午前9時54分)。
鈴木善幸 撮影**

農学部所属の水産フィールドセンター(農学部のHPより)

平成23年3月25日
齋藤 忠夫(東北大学大学院農学研究科 教授)